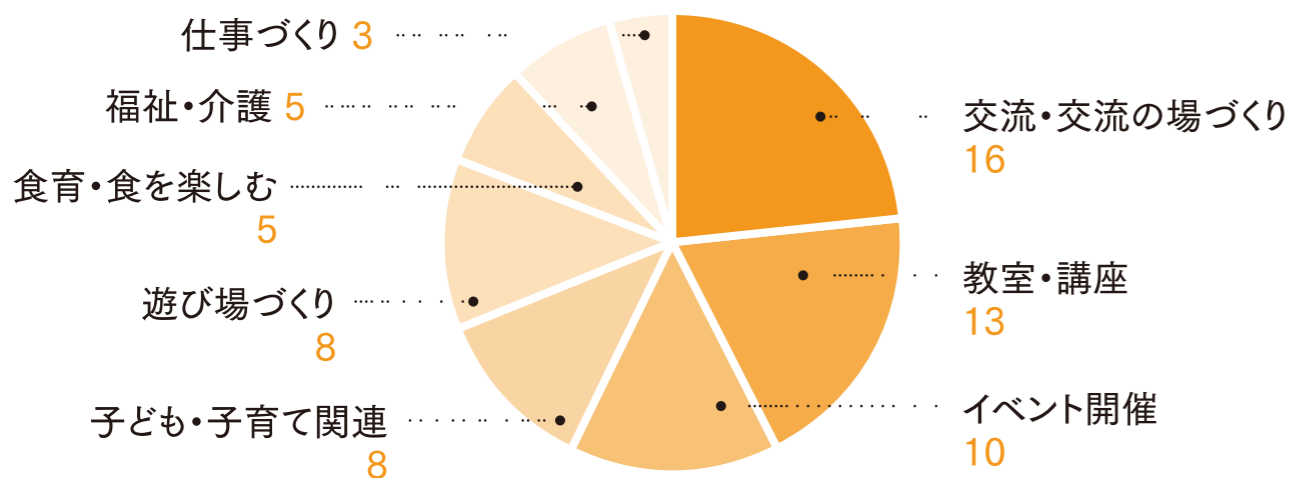


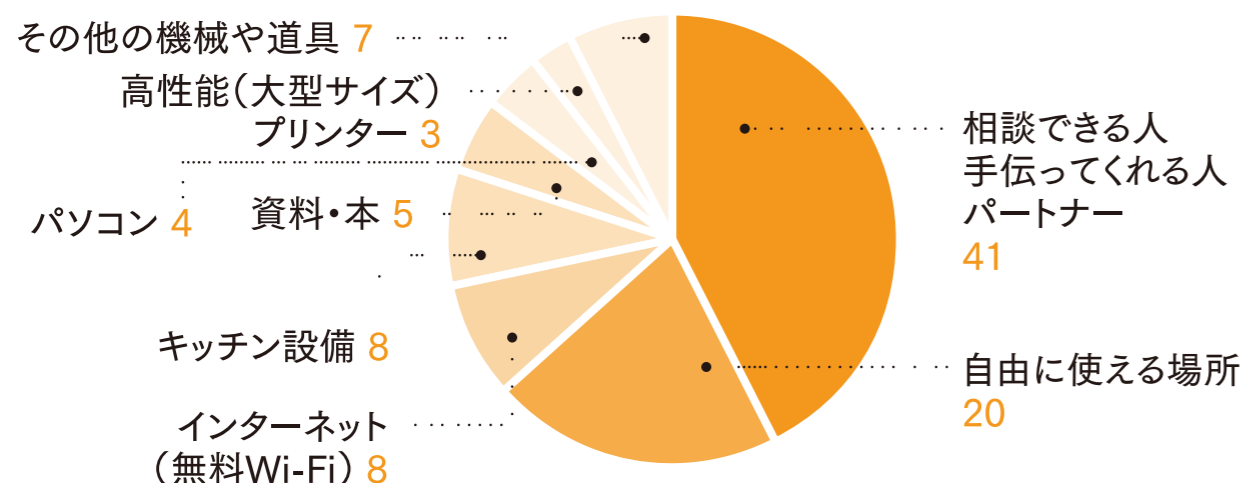


アンケートの結果

あなたがしたいデザインはなに？



あなたがしたいデザインの実現のためにあったらいいと思うものは？



NEWS LETTER

Vol. 4

2018

11/7 水

第3回ゼミ「つながりをデザインする」

芦屋のまちの
学び、考える、
みんなで



開催日 2018年11月7日(水) 19:00~21:00
会場 あしや市民活動センター2階会議室

たのしくワクワクできるまちに住みたい、働きたい。
そんな思いを実現するために、私たちはどんなコトをすればいいの、どんなモノがあればいいの、
一緒に考えたり学んだりする「芦屋まちデザインラボ」の第3回ゼミが開催されました。

第3回ゼミのテーマは「つながりをデザインする」
ゲストチューターに、神戸市の東遊園地を楽しむイベント「アーバンピクニック」の企画運営をしている
村上豪英さんを迎え、公園を使ったまちの活性化とつながりづくりに関するトークを聞いたあとで、
前回の3枚のカードを使って発想を飛躍させるワークを再度行い、アイデアの幅を広げるトレーニングをしました。

発行：芦屋市 企画部市民参画課 発行日：2018年11月21日

連続ゼミ

今年いっぱい、芦屋のまちと暮らしを素敵にデザインするための
連続ゼミが開かれます。※連続ゼミの参加申込は締め切りました。

開催日とテーマ

- 第1回 10月10日(水) 済 楽しみ方をデザインする チューター/東村奈保さん(NPO法人ソーシエ代表理事)
- 第2回 10月24日(水) 済 働き方をデザインする チューター/山森彩(合同会社ユブネ プロジェクトマネージャー)
- 第3回 11月7日(水) 済 つながりをデザインする チューター/村上豪英さん(神戸モトマチ大学、アーバンピクニック主宰)
- 第4回 11月21日(水) — まちをデザインする チューター/中脇健児さん(場とコトLAB主宰)
- 第5回 12月5日(水) — 発表! 私たちの「芦屋×自分×デザイン」

お問合せ / 芦屋市役所市民参画課 芦屋市精道町7番6号 TEL 0797-38-2007 9:00~17:30

PART 1 チューターズトーク

今日のチューター **村上 豪英さん** (神戸モトマチ大学・アーバンピクニック主宰)

2つの大震災を経験してまちづくりに関心をもつようになった村上さんに、2015年から社会実験として神戸市の東遊園地で始めた「アーバンピクニック」の事例を教材に、まちと人のつながりをデザインすることの楽しさや体験についてお話を聞きました。以下はそのお話のまとめです。

●京都で大学生をしている時に阪神・淡路大震災があり、その時に「改めてまちづくりについて考えなくてはならない」と思いながら、結局何もしないまま16年を過ごし、2011年に東日本大震災を迎えてしまいました。その時に思ったのは「自分は結局何もせずに過ごしてしまえる人間なんだなあ」という深い反省で、「今からでも何かしたほうが、しないよりはずっといい」「今度こそ自分のまちのために何かしよう」と決意しました。

●そんな時に気になったのが、三宮駅から南に向かうフラワーロードの西側にある大きな公園「東遊園地」でした。都会のオアシスの存在のはずなのに、いつもほとんど人が集っていません。それもそのはず、当時の東遊園地は一面の砂地で、まるで都会の砂漠のような様相を呈していて、憩いの要素が何もないのです。「ここをこんなまま放置しておくのは、まちにとっても市民にとっても大きな損失だ」と思った私は、2015年6月に公園の一面に芝生を敷いて、2週間、カフェやライブラリーを開きました。これがアーバンピクニックの始まりです。

するとみるみるうちに人が集まりだし公園らしい賑わいが生まれたので、2015年秋に再度開催すると、今まで通り過ぎるだけだった公園に人が滞在するようになり、社会実験は成功と呼べる結果になりました。

そんな経緯もあり、2017年7月には神戸市の予算で全面芝生化がかない、東遊園地は市民のアウトドアリビングとして使われるようになったのです。

●東遊園地で実験したのは「どうしたら公園を育て、市民が集い活躍できる場にできるか」ということでした。それは公園を通して、まち、人、休日、楽しみ、場、つながりなどをどうデザインできるかという模索でもあります。私たちは、単に公園を賑やかにしたいだけでなく、そこに生まれる楽しく面白いコトや人のつながりを育てたいと思い、そのように東遊園地を育てる試みとしてアーバンピクニックを開催しているのです。



アーバンピクニックは約半年間行われ、その間、カフェ、アウトドアライブラリー、ナイトピクニックなど、いろいろなイベントや試みが次々と展開される。

●もう一つ、私が関わっているものに「神戸モトマチ大学」があります。これは三宮から元町のあいだをキャンパスに見立てて、毎回誰か素敵な人、気になる人を呼んで来ては、その人の話を聞いたり、ワークショップをしたりするという場です。

ここでもやはり人と人のつながりが生まれるわけですが、そのつながりのデザインについて決めているルールがあります。

それは「リピーターをつくらない」そして「強固なコミュニティがあると思われないようにする」という2点です。

「リピーターをつくらない」というのは、神戸モトマチ大学というのは、居心地の良さやなれ合いで集うのではなく、同じテーマに関心を持つ人たちが集う場にしようという意味です。モトマチ大学は友達をつくるための場ではなく学びの場と位置付けているので、同じことに興味を持っている人が隣にいる環境をつくったほうがきっと心地よく目的にかなった場になるはずだという理屈です。

また「強固なコミュニティがあると思われないようにする」というのは、特別な絆で結ばれた人たちしか立ち入れないような空気をつくらないようにするという事です。そのテーマに関心を持つ人が、誰でも気軽にアクセスできて、平等に学べて楽しめるというのが、この大学の本質であり魅力なのですから。

このように人とまちと何かを結んで「場」をデザインし、そこから新しい何か生まれるという経緯や結果は、自分にとっても非常に楽しく勉強になるものです。



PART 2 本日のワーク<アイデアの幅を広げて、つながりをデザインする>



前回に引き続いて、柔軟な考え方をしてアイデアの幅を広げながら、次の2点を意識しながら、つながりをデザインするトレーニング的なワークをしました。

- Point ① 言葉を、文字通りに解釈せずに、いろいろ分解してみる。
- Point ② 合言葉は「知らんけど」。発想やアイデアについて無責任でOK。

- 青のカード ⇒ つなげる人のカード ⇒ 2枚を引き、全員に共通のテーマに。
- 緑のカード ⇒ みんなの関心のあることが書かれたカード
- 黄のカード ⇒ プラスするアイデアカード



TRY 1

中学生	家政婦	1班	林道	×	お祭り	から生まれたアイデア	会下山(えげのやま)祭り
		2班	沖縄	×	スナック	から生まれたアイデア	子どもスナック
		3班	ディズニーランド	×	アプリ	から生まれたアイデア	ご褒美ディズニーランド旅行
		3班	なす	×	子ども	から生まれたアイデア	家政婦さんに聞くナスの活用方法イベント
		5班	建物	×	遊び	から生まれたアイデア	不登校児童のビル清掃
		6班	SNS	×	家庭料理	から生まれたアイデア	中学生による日本の家庭料理についてのSNS論争

TRY 2

市長	家族	1班	赤ちゃん	×	web	から生まれたアイデア	赤ちゃんの画像をwebで管理して市長がプレゼントする
		2班	お弁当	×	DIY	から生まれたアイデア	手作り弁当の市長表彰制度
		3班	ワンオペ	×	居場所	から生まれたアイデア	ワンオペママに市長が必要なサービスをプレゼント
		3班	脳トレ	×	遊び	から生まれたアイデア	家族同士の交流会企画を市長に提案する
		5班	写真	×	スナック	から生まれたアイデア	市長経営のスナックでの写真撮影サービス
		6班	運動	×	行政	から生まれたアイデア	出身国特有のスポーツ大会で芦屋を国際都市に